

## 平成 28 年度仙台駅周辺帰宅困難者対応訓練に参加しました(2016/9/2)

テーマ：帰宅困難者，仙台駅周辺，一斉帰宅抑制  
場所：仙台駅前周辺地区

9月2日（金），仙台駅前周辺地区において，平成 28 年度仙台駅周辺帰宅困難者対応訓練が開催されました。主催は仙台駅周辺帰宅困難者対策連絡協議会であり，東北大学，東北学院大学，東北福祉大学，宮城学院女子大学の教職員と学生，約 100 名が帰宅困難者役となりました。災害科学国際研究所からは，佐藤健教授と桜井愛子准教授（いずれも情報管理・社会連携部門）が学生とともに参加しました。

震度 6 強を観測する大地震により，JR や地下鉄などの公共交通機関が途絶した状況下において，仙台駅周辺地区の滞留者の中から帰宅困難者が発生し，情報連絡員による情報提供や誘導に基づいて，緊急退避場所から仙台駅前周辺地区で指定されている複数の一時滞在場所へそれぞれ避難する訓練となりました。一時滞在場所へ到着後は，食品用ラップフィルムを用いた応急救護に関する実演と訓練，ペットボトル水とクラッカーの運び込み，配布などの訓練が行われました。

また，訓練に先立って，仙台市危機管理室から訓練参加者向けに，一斉帰宅抑制の基本的な考え方についての解説，QR コードによる災害情報の入手方法や，災害時帰宅ステーションの説明なども行われました。

避難者の制御や管理を行う側の訓練は，今回が 3 回目であり，訓練の成果が蓄積されてきています。一方で，実際の避難者となる可能性のある市民の側の一斉帰宅抑制に関する基本的な方針の理解をはじめ，緊急退避場所，一時滞在場所，災害時帰宅ステーションなどの正しい知識を事前に得ておくことの重要性を感じました。



帰宅困難者役の学生



一時滞在場所への移動



テレビ取材を受ける桜井准教授

文責：佐藤 健（情報管理・社会連携部門）